

今日のトピック 好業績を背景に大崩れしない米国株式市場 米通商政策が足かせに

ポイント1 頭の重い展開 米中貿易摩擦が深刻化する懸念広がる

- 米国株式市場は8月に入ってから頭の重い展開となっています。7月31日にトランプ米政権が2,000億ドル相当の中国からの輸入品への制裁関税上乘せ幅を10%から25%に拡大する可能性が報じられました。また8月7日、8日には、米中双方が当初示していた500億ドル相当の追加関税のうち、残り160億ドル分の発動日を決定しました。こうした米中貿易摩擦がさらに深刻化する懸念の広がりに加え、トルコへの経済制裁などの強化に伴うトルコリラの下落と米ドル高なども市場センチメントに影響を与えています。

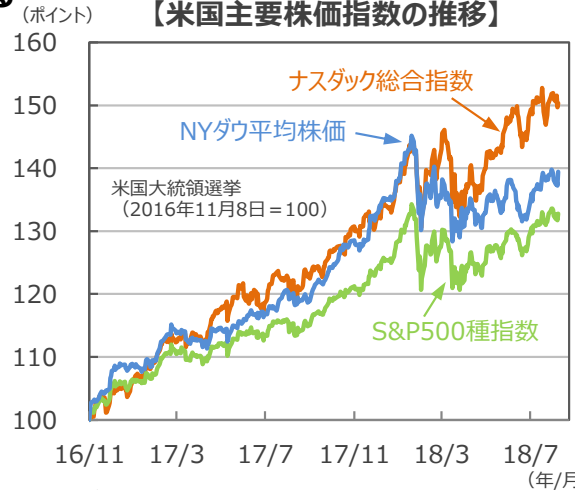
ポイント2 好業績が株価を下支え 2018年通期予想も上振れ

- こうした中、米国企業の4-6月期の決算は総じて好調でした。トムソンロイターズの調べによれば、S&P500採用企業の1株当たり利益は前年同期比で+24.5%の増益です（8月15日発表ベース）。2018年通期も前年比+23.3%と5月末時点（同+22.0%）よりも上振れています。好業績が株価を下支えしていると考えられます。

今後の展開 当面一進一退の展開が続こう

- 米国企業の好業績は年後半も持続する見通しで、米国株式市場は中期的には緩やかな上昇が期待されます。ただ、当面は一進一退の展開となりそうです。11月の中間選挙を控え、米国の通商政策はより保護主義的な色彩を帯びると思われます。米中貿易摩擦の深刻化に加え、足元ではトルコに対して経済制裁を実施し、トルコが米国製品に制裁関税をかけるなど混迷の度合いが深まっています。また、欧州連合（EU）との貿易交渉や北米自由貿易協定（NAFTA）の再交渉なども控えています。関税引き上げ合戦が広がる可能性は少ないと思われそうですが、米国の通商政策の行方をにらみながらの展開が続きます。

【米国主要株価指数の推移】



(注) データは2016年11月8日～2018年8月16日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【S&P500採用企業の1株当たり予想利益】
(前年同期比、前年比、%)

セクター\年月期	2018				2018 (予想)
	1-3月 (実績)	4-6月 (予想)	7-9月 (予想)	10-12月 (予想)	
S&P500全体	26.6	24.5	22.4	20.3	23.3
一般消費財	18.7	22.1	16.8	17.7	18.9
生活必需品	13.1	13.2	7.7	7.9	10.3
エネルギー	88.7	123.3	98.4	81.7	93.8
金融	30.7	27.2	45.2	28.3	32.3
ヘルスケア	16.2	17.9	11.1	12.9	14.5
資本財・サービス	24.8	20.4	17.4	31.0	23.5
素材	39.4	40.0	32.0	17.6	29.6
不動産	3.1	3.0	4.3	9.1	5.0
情報技術	36.5	25.7	16.8	15.8	22.8
電気通信	14.7	16.4	23.1	16.4	17.6
公益事業	16.4	8.7	5.4	▲ 3.9	6.8

(注1) データは2018年1-3月期～2018年10-12月期、2018年、2018年1-3月期は実績。予想はトムソンロイターズI/B/E/S、2018年8月15日発表。

(注2) ▲ は2桁増益を示す。
(出所) トムソンロイターズのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2018年8月15日 トルコ問題と今後の展開について 2018年8月 8日 吉川レポート (2018年8月) 通商問題の着地点

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。